

4. 地震で被災しないために、あらかじめ知っておきたいこと

地震の揺れが始まったとき！

1. 机や掘りごたつなどの下に潜り込みましょう。そのとき、片手でしっかりと机などの脚を握りましょう。奈良盆地東縁断層帯地震では、天理市内で立っておれない激しい揺れは長くても30秒程度ですが、南海トラフ沿いの地震では、1分以上続きます。この強い揺れの時間の長さで、2つの地震を見分けることができます。
2. 揺れている最中に、家を飛び出すのは大変危険です。家を出たとたん、車にはねられたり、隣の家ブロック塀が倒れて犠牲になった人がいます。
3. 石油暖房器具は転倒すると、自動的に消火します。ガス調理器具および暖房器具は地震時にマイコンメータが自動的にガスを遮断し、消火します。電気調理器具や暖房器具を使用中は、スイッチを切り、電気ケーブルをコンセントから抜きましょう。
4. 出火したら、すぐに必ず火を消しましょう。火災現場を離れず、身近なところに消火器や水がなければ、土の入った植木鉢を投げつけたり、座布団で叩いたりして消火しましょう。



地震の揺れが収まった後！

1. 夜起こると、停電します。懐中電灯をすぐに使えるように、身近なところに複数個用意しておきましょう。
2. 裸足は危険です！必ずスリッパや靴などを履いてから、部屋を移動するようにしましょう。割れた窓ガラスの破片や床に落ちて壊れた食器やガラス瓶を踏んで大けがをするからです。
3. 保護者のいる部屋と子どものいる部屋が違う場合、子どもは部屋から動かないで、揺れが収まってから、保護者が子どもの部屋に行き、安否を確認するようにしましょう。
4. 玄関のドアが開くことを確認し、中開きにしておきましょう。
5. 住宅が被災したので、避難所に向かう時には、停電していて電気がつかなくても、電気のブレーカーを落としましょう。これで、通電火災を防ぐことができます。
6. 備蓄品が入った重いリュックサックや非常持ち出し袋は、避難所に避難後、自宅の応急被災度判定によって安全が確認されてから取りに帰るようにしましょう。

